

キャンパスから

北見工大
樹井文人教授

北見工大、小樽商大、公立はこだて未来大、帯広畜産大の連携プロジェクトの一環として「北の四大学ビジネスプラン発表会2019」が昨年12月14日、札幌で開かれました。4大学の学生たちが、北海道の地域課題を若者目線で捉え、1年をかけて練った解決プランを披露しました。

ました。しかし、カリキュラムの変更により、本年度は研究室の3年生の参加が困難に。そこで今度は、私がおの先生と共同で担当している「マネジメント工学コース」の授業の一つとして、プランの作成から発表まで取り組むことにしました。

地域課題の解決策発表



多くの学生が参加した昨年12月のビジネスプラン発表会

マネジメント工学コースは、工学の専門知識だけでなく、組織運営や地域連携などビジネスの実践的場面で必要となるスキルを習得するコースです。私の授業を履修する学生たちは、最初は進め方が分からずとまどっていました。ステッ

プを踏むことに意欲的になり、研究の成果をまとめあげるところには目の輝きが変わっていました。

提示したプランは「POKKARRI〜手ぶらで行ける寒冷地旅行〜」。オホーツク地域を訪れるビジネスマンや観光客にオンデマンド防寒着レンタルサービスを提供するものです。結果は、三つある賞のうちの一つを受賞。審査員を務める協賛企業の担当者らに、実効性が高いプランだと評価されました。

学生たちが自発的に地域課題について話し合っただけで、研究成果を発表し、評価を勝ち取る。本人たちはもとより、私自身も大きな経験と自信を得ることができました。21世紀の高等教育とは、こんな形で進展していくのかもしれない。